

ベ"議会だより つかい

第97号

2021年5月

特集

本定例会で委員会を 新体制に構成替え 2

2年間の調査を振り返る

総務文教常任委員会 3

福祉医療常任委員会 4

産業建設常任委員会 5

一般質問(田村、中村、宮越、外山、横田、木嶋、瀧川、小椋の8議員) 6

定例会・臨時会のまとめ 14

議会のうごき 15

シリーズ 町民に聞きました

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種はじまる ... 16

いよいよ始まった医療従事者向けワクチン接種
「やっとここまでこぎつけた」と感慨深く語る西村院長



北海道別海町議会

本定例会で委員会を 新体制に構成替え

議会基本条例調査特別委員

会が実施したアンケートの結果からも、コロナウィルス感染症に関する対応、秋さけの不漁対策に関する対応など、多数の声が寄せられました。ふるさと交流館の直営化、コロナワクチンの接種など緊急性の高い調査課題がある中で、速やかな委員会構成を必要とすることがあり、委員会条例の一部改正を行い、3月12日から議員任期後半の委員会構成を一新し、議会運営を行うことになりました。



4月から直営化されたふるさと交流館

【各常任委員会 今後の主な調査内容】

産業建設常任委員会	福祉医療常任委員会	総務文教常任委員会
・別海町酪農研修牧場の在り方について ・水産系副産物再資源化施設の運営について ・新型コロナウイルス感染症の影響に対する経済対策について ・ふるさと交流館の運営について	・新型コロナワクチンの接種について ・MRIの運用について ・地域医療体制の充実及び健全な病院経営の推進について	・新型コロナウイルス感染症の対策について ・防災対策について(ハザードマップ) ・別海高等学校教育支援事業(通学バス助成事業) ・まちなかの3館連携拠点と児童・生徒が集う教育環境づくりについて

各常任委員会、特別委員会の構成は15頁に掲載しております。

令和3年度 各会計予算を審査

第一回定例会に提出された

令和3年度各会計当初予算案について、3月10日から2日間予算決算審査特別委員会で慎重に審議しました。

主な質疑を報告します。

コミュニティFM放送通信施設設備事業

814万円

田村委員 業務委託料の内容とFM放送の目的と活用法は。

回答 「FMはな」の視聴を可能とする放送通信設備の実設計を行う。防犯情報など行政情報を発信する。

通院等乗合ハイヤー事業

50万円

瀧川委員 新規事業と試行事業との相違点は。

回答 対象者の要件は運転免許を有しないものとしているが、対象要件を緩和した。

公衆トイレ改修事業

298万円

横田委員 事業内容の詳細は。

回答 白鳥台のトイレを男子女子ともに1基、本別海のトイレ男子1基、女子2基を洋式化する。

ふるさと交流館管理経費

4665万円

中村委員 直営化の進捗状況、業務委託内容および委託先は。

回答 備品確認と浴場清掃など業務の確認を実施中で、5月から入浴のみ再開予定。

小椋委員 今後、準備が整い次第、レストランの運営事業者をどのように選定するのか。

回答 広く公募する。

教員住宅等管理経費(中学校費)

229万円

大内委員 教員住宅の管理戸数と利用実績、目的以外の利用内容は。

回答 管理戸数60戸、入居者数51戸。元光進小中学校の教員住宅2戸を地元町内会に貸与している。

総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 松壽 孝雄 副委員長 外山 浩司 委員 戸田 憲悦・中村 忠士・田村 秀男

新型コロナウイルス 感染症対策に翻弄される

選挙後の初議会(令和元年5月9日)を経て、総務文教常任委員会の構成が決定し、議員任期4年間にわたる調査計画を作成して調査を進めてきました。

また、第2期別海町議会活性化計画の重点計画の一つである「委員会の調査力および政策力の向上」を推進する目的で、委員の任期である2年間で取り組む重点調査項目を以下の3点に絞り調査を進めてきました。

- ①災害対策について
- ②小中一貫教育および別海高校の魅力向上について
- ③人口減少対策について

しかし、2年目からは収束の見えないコロナウイルス感染症により、日常生活をはじめ地域経済への打撃や行事の中止などに大きな影響が出て

調査項目にも変化が出てきました。

コロナウイルス感染症に行動が影響されなかった1年目は、積極的に研修や行政視察を通し、研鑽を深め調査力を磨きました。

しかし、2年目はコロナウイルス感染症対策に翻弄され



道の駅おだいとうで、地震や津波、冬期災害を想定した初の合同訓練

る年でした。

改善されたこととしては、議員全員にタブレットが貸与され、調査資料などの検索が飛躍的に便利になり、町の個別計画、会議の要点記録、議案などもすべて見ることができるようになりました。

2年間で実施した 主な調査項目

- ①2年目を迎えた高校生の寄宿舎に関する調査
- ②人口減少対策に特化した「第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の調査
- ③土砂災害危険箇所と急傾斜地崩壊危険区域の現地調査
- ④高校通学バス助成金の現物給付の調査と別海高校事務担当者との意見交換会
- ⑤新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止対策、中小企業・飲食店・宿泊業などの経済対策を調査
- ⑥災害時の避難所運営マニュアルの一部改正(新型コロナウイルス)

ナウイルス感染症の対応)

- ⑦GIGA(ギガ)スクール構想の調査
- ⑧別海町中長期財政計画の調査

査

- ⑨活躍する地域おこし協力隊との意見交換と期待する活動と隊員の目指す活動調査
- ⑩コロナ感染症対策物資整備状況の調査

以上の所管事務調査を、閉会中にも継続して調査を進めてきました。

今回の委員会構成替えにより新しい体制になります。後任にしっかりと引継ぎ、令和3年も切れ目のない調査を行います。

【継続調査引継ぎ項目】

- ①新型コロナウイルス感染症対策について
- ②別海高等学校教育支援事業(通学バス助成事業)
- ③まちなかの3館連携拠点と児童・生徒が集う学習環境づくりについて
- ④防災対策について

担当所管 福祉部・別海病院など 委員長 木嶋 悦寛 副委員長 小椋 哲也 委員 佐藤 初雄・松原 政勝・横田 保江

二年間での主な調査項目

- 子育て支援策の充実
- 病児・病後児保育事業の推進
- 幼児教育・保育無償化に伴う給食費に関して
- 子どもの虐待防止に関して
- 東部地区高齢者施設の充実
- 合葬墓の設置
- 自殺を防ぐ精神保健対策の推進について
- 各種計画の更新
- 病院の経営と医師の確保
- 新型コロナウイルス感染症対策について
- MRⅠ導入に関して
- 地域包括ケア病床の設置などを調査してきました。

改選後、新たに構成された

中標津町の子育て支援施策「連携と協働」

The diagram illustrates a network of support measures for child-rearing in Mitsumori Town, centered around "targeting children." Key components include:

- Central Concept:** 児童をターゲットにする (Targeting children)
- Support Measures & Partners:**
 - イールド・アドバイザー (Yield Advisor)
 - 子どもたちの未来は、なまぬかみにある (Children's future is in the warmth)
 - 中高生の意見を反映 (Reflect middle school students' opinions)
 - 遊びを通じて地域生活を保障 (Guarantee community life through play)
 - 5つの児童館が連携 (5 children's centers cooperate)
 - 利用希望 (Wish to use)
 - 中高生の居場所 (Middle school students' place)
 - 友達や仲間 (Friends and peers)
 - 利用ルールも自分たちで (We also make our own rules)
 - 地域の宝 (Treasure of the area)
 - 中高生に必要な (Necessary for middle school students)
 - 部活に足額かせない工夫 (Efforts not to deduct full amount for extracurricular activities)
 - 友達や仲間 (Friends and peers)
 - 児童館で学び (Learn at children's center)
 - 子ども達の笑顔 (Smiles of children)
- Overall Goal/Theme:** 地域・人・遊び (Area · People · Play)

委員会では、人口減少や少子高齢化といった社会現象に対し、まずは子育て支援策の充実について調査を行いました。

中標津町では児童館を中心とした子育て支援・虐待防止

ネットワーク、学びや中高生の居場所の保証、地域コミュニティへの参画など、児童館の建て替えを契機に行われた取り組みが現在の地域づくりに活かされている点は、当町にとっても活かすべき視点であると考えます。（産業建設常任委と合同調査を実施）

根室市ではふるさと応援寄付金を子育て支援に活用。支援メニューの拡充や、サービス利用者にわかりやすい冊子の作成など、いただいた寄付を活かすための工夫が随所に見られました。

MRIを導入するなら利益の最大化を目指す。導入議論に方向性を生んだ貴重な調査

令和3年度から運用されるMRーについて、令和元年10月に公立芽室病院を考えるセミナーへの参加を決めました。当初は高額な設置費用などから、MRー導入の是非について議論がありました。セ

ミナーのために来道されていた専門家との意見交換により、現在の医師たちの学びの環境には電子カルテやMRI、高性能CTなどが当たり前の世界であり、自前の設備としての声は大きいとお話を伺いました。

そして、病院経営としては、目先のコスト削減よりも、収益の最大化を目指すべきであるとの助言を受けました。

時代が求めるお墓の形 合葬墓を調査

家族の形態や居住地の変化などに対し、お墓を建てない選択をされた方へ応えるために、町でもべつかい霊園内に合葬墓を建立しました。

これも町民の多様なニーズに応え、福祉の向上に資するものと考えます。

新型コロナウイルスの影響で実施できない調査もありましたが、充実した調査ができました。

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 今西 和雄 副委員長 大内 省吾 委員 瀧川 榮子・小林 敏之・宮越 正人

コロナ対策第3弾 具体化に向け検討へ

コロナ対策について、これまでの結果を分析し、今後の対策を調査しました。

第2弾経済対策として、別海町超プレミアム商品券が発行され、期間内に共通券・飲食宿泊券・大型店以外限定券がほぼ100%利用されました。

換金割合調査の結果、バー、スナック、宿泊施設での利用が少なく、プレミアム商品券が波及しなかったと分析の報



町の補助事業を活用して設置したアクリル板

告がありました。

今後の対策について委員からの質問に、第2弾の効果が薄かった業種や、アンケート調査の結果を踏まえ、第3弾対策を検討し、臨時議会で提案するとの回答がありました。

さけ・ます増殖事業の経緯

1969年、国、道、民間の3者で運営がスタートしました。平成9年に国が撤退後、増殖は北海道さけ・ます増殖事業協会と管内のさけ・ます増殖事業協会が担っています。

●管内の構成員 8漁協

(羅臼、標津、野付、別海、湾中、根室、歯舞、落石) 8漁協の154の定置会員

(別海20ヶ統 野付34ヶ統)

根室管内 1市4町

●事業内容 捕獲採卵事業か

ら、ふ化放流事業まで一元管理。

●負担金 構成員は総水揚げの6・8%、会員の会費1万円

さけ親漁捕獲採卵事業で捕獲漁が100%に満たない場合、オホーツクなど全道で融通しあい100%確保を目指します。不漁中での親さけ確保は、増殖事業の大きな課題ととらえています。

管内さけ・ます増殖事業協会と1市4町が丸となって、強力な支援策を国に求めています。

以上の報告を受け、今後の動きを見守り調査を継続していきます。

ふるさと交流館

3月末の指定管理期間満了に向け、速やかに引継ぎが行われるよう協議中です。

今後、機械室配管、宿泊棟間仕切、源泉湯湯ポンプ更新を予定していますが、詳細は

まだ協議中のため、当初予算計上は見合わせられました。

入浴再開時期は5月連休前後を旨し、管理運営全般を業務委託、商工観光課の会計年度任用職員で対応するとの報告がありました。

委員からは一日も早い再開に向け対応すべきとの意見が出されました。

別海町鳥獣被害防止計画

中間見直しにあたり、アライグマ、ミンク、イタチを対象鳥獣として新たに追加し、別海町有害鳥獣対策協議会・パブリックコメント・道との協議後に認定すると、委員会に報告されました。

前期の総括について

現地調査も含め概ね計画に沿って調査を行いました。

コロナ禍に振り回された2年目でしたが、継続調査を含め後期委員会に委ねます。



議員8人による一般質問

質問 森林の将来展望を想像する 「森林ビジョン」の策定



田村秀男議員

質問 多面的・公益的機能を持つ当町の森林の現況は。

答弁 国有林1万4733畝、道有林2171畝、町有林7138畝、私有林1万9056畝、合計3万8838畝の森林があり、総面積の29%を占めている。

質問 令和6年度から1人年額千円の森林環境税が賦課徴収されますが、当町での課税者の見込みは。

答弁 個人住民税均等割に加算し、令和6年度の課税者を8513人と見込んでいます。

回答の要約

町の森林整備計画は、おおむね森林ビジョンと同等のものと考えており、現在のところ策定予定はない。

質問 令和元年度から配分(575万円)されている森林環境税と税の増額見込みは。

答弁 段階的に増額され、森林環境税が賦課される令和6年度以降は、1942万円で推移するものと試算している。

質問 森林経営管理制度に基づく意向調査件数の見込みは。

答弁 経営管理が行われていない森林の調査対象人数を726名と捉えて、当初予定していた7年間の調査期間を

5年間に早めて実施を予定している。

質問 町内主要7河川沿いの未立木地に、両岸100メートル程度の幅で造林を計画する事前調査を令和元年度に341・85畝実施しているが、土地所有者の植栽可否の意向は。

答弁 対象地の所有者に河畔へ造林する意向調査をした結果、西別川およびポンヤウシュベツ川を除く5河川、57・75畝の土地所有者から造林可能の回答を得ている。

質問 森林の多面的機能を発揮させるためには、森林率や基金への積立て目標を含め、町有林・私有林・河畔林の整備方針の構築、当町の地域性を活かした施業方法、基幹産業である農業・漁業との調和を図る方策など、総合的に推進する「森林ビジョン」が必要と考えるが、町長の見解は。

答弁 全道および全国的に見ても策定している自治体は少なく、現在策定を進めている町森林整備計画に将来の森林に関する方向性や基本とする方針が記載されているので、おおむね森林ビジョンと同等のものであると考えており、現在のところ策定する予定はない。



人工林造林後の森林

質問を終えて

大切な森林資源の「伐って、使って、また植える」循環的利用を！



詳細はこちらのQRコードから

議員8人による一般質問

質問

コロナ禍で教員の変形労働時間
制導入を優先する根拠は？



中村忠士議員

回答の要約

働き方改革の一つとなる。
導入は令和4年度以降。

質問

町教委は「令和3年度からの導入を検討」と答弁している。コロナ禍で感染対策に知恵も時間も割かなければならない状況にあつて、新たな準備や体制整備などを強いられる「変形労働時間制」導入を優先する理由は何か。

答弁

学校における働き方改革を行うためには多種多様な取り組みが必要であり、一年単位の変形労働時間制はその取り組みの一つとなることから、制度の活用を希望する学校がある場合に対応できるように、制度の導入を検討してきた。
「令和3年度からの活用」を

検討していた学校の意向が「令和4年度以降の活用」と変更された。

このことから町教委として、令和4年度以降の活用に向けた準備を進めることとした。

質問

制度導入の条件として学校現場で先生方に制度について周知し、先生方の意見をよく聞き、共通理解を図っていかねばならない。

しかし、コロナ対策が最優先されるべきときであり、そのため制度の周知などに十分時間をかけられないことも生じ得る。

そうした状況で周知などが

十分行われない場合は、導入はできないし、するべきではないと思うが。

答弁

この制度は非常に複雑であることから、各教員に説明し全員が共通理解を得るためには非常に時間がかかる。理解できない場合は、導入は困難であると認識している。

新型コロナ対策としてPCR検査を

質問

無症状感染者をいち早く把握し保護することが感染拡大を抑える力ギとなっている。釧路市、根室市のように医療、福祉、介護施設の職員を対象にPCR検査を公費で実施する考えは。

答弁

感染経路が不明な新型コロナウイルス感染者が町内で複数発生し、近隣の市や町などでも相当数の感染者が発生している状況がある場合に、町内の医療、高齢者、障がい者施

設の従業者や委託事業者を対象にPCR検査を行う。対象人数は650人ほどを想定している。

酪農経営科の生徒獲得に向けて

質問

別海高校酪農経営科入学希望が5人だったが。

答弁

別海高校酪農経営科のPRを全国に展開し、情報を積極的に発信して知名度をあげるよう取り組む。産業構造の変化を踏まえ、全道的な視野で農業教育の在り方について調査・研究し、検討結果を高校と共有する。



別海町の特性を活かしたテコ入れが求められる酪農経営科

「酪農のまち」の別海高校酪農経営科を町民みんなで育てていきたいと思います。

質問を終えて



議員8人による一般質問

質問 秋さけの不漁対策に係る 管内町村会などの対応について



宮越正人議員

質問

昨年12月の定例会時に質問した秋さけの不漁対策について、管内町村会においては、どのような協議が行われているか、町長のリーダーシップにより進展している不漁対策はあるか。

答弁

12月定例会後、管内の首長が集まる機会があり、私の方から根室管内的な大きな問題であり、一丸となった取り組みをしたいと提起した。また2月には、全道の首長が集まる機会があったことから、不漁対策は全道的な問題として一丸となった対応をするべきと訴えている。

回答の要約

秋さけの不漁対策は主力魚種の違いなどから、全道的に統一した取り組みは難しいが、さまざまな場面で北海道全体の問題として提起していく。

実態としては、秋さけの漁獲量の違いや各地域の主力魚種の違いなど、早期に全道的取り組みとするのは難しい状況である。

しかし、この対策は襟裳岬以東だけの問題にとどまらず、全道的な問題であることを伝え、引き続きさまざまな場面で北海道全体の課題として働きかけていく考えである。

また、管内さけ・ます増殖事業協会などから要望はないが、令和3年度事業として、別海漁協が「秋さけ資源対策事業」として、別海漁港および走古丹漁港で秋さけの2次飼育を実施する計画があるの

で、町として支援するため予算計上している。

また、今後においても管内増殖事業協会や町内両漁協の声を聴きながら、これらの課題に取り組んでいく。



道や国の事業としてふ化事業を実施してほしい！

ベストタイミングで 商工事業者に対する 町独自の支援を！

質問

当町では、超プレミアム商品券事業など、商工会が要請する新型コロナウイルス感染症に対する経済対策の支援を行っており、その対策の立案と予算編成など担当職

員の奮闘に、各事業者から称賛の声も多く上がっている。

しかし、アクリル板などの予防対策だけでなく、肝心の集客支援策も必要と考えるが。

また、第3次臨時交付金1億6千万円の使い道はどう計画しているか。

答弁

町が政策立案する場合は、事業者へのアンケート調査や各事業所と経営相談をしている商工会との意見交換により決定している。

町としてはこれまで同様、国や道の対策や宣言に伴う人の動きなどの情報収集を重ねながら、商工事業者に寄り添った有用な支援策を取っていきたいと考えている。

第3次の臨時交付金については、今後において、国が示す条件を踏まえて、承認された計画予算を次年度で対応していきたい。その内容については、経済対策・飲食店の皆さんの状況も確認しながら、しっかり対応していく。



詳細はこちらのQRコードから

議員8人による一般質問

質問 日本遺産に認定された文化財の活用方法は



外山浩司議員

質問

根室管内1市3町の標津町・根室市・別海町・羅臼町の歴史文化にまつわる「鮭の聖地の物語」根室海峡一万年の道程」が、令和2年6月に日本遺産に認定された。

当町の観光、町づくりに向けた活用方法は。

答弁

今年度は、人材育成事業としてガイドの育成とテキストブックの制作。調査研究事業として各市町の構成文化財を、深掘りする周遊モデルコースの調査整備と当町の加賀家文書館に収蔵してある江戸時代のブランド鮭鱒を紹介した古文書の現代版を構築

回答の要約

1市3町の組織の「鮭の聖地メナシネットワーク」で検討していく。

する整備事業が進行中である。

今後、管内組織の「鮭の聖地メナシネットワーク」で検討し、構成文化財を中心としたストーリーの魅力を外内へ



標津線関連資産群の旧奥行臼駅

浸透させ普及啓発していく。

質問

平成29年の滋賀県の調査では、「日本遺産を全体的に認識している」という住民が8%と非常に少なく、住民の約40%が経緯や意義を理解していない結果でした。

町民への周知、理解をどのように進めていくか。

答弁

オンラインセミナーや各市町での日本文化遺産巡回展の開催、各種パンフレットの制作、ポスターの掲示などを実施予定である。

広報誌などを通じて理解を深め、地域活性化につなげていく。

質問

別海町の将来を担う子どもたちの理解が大切だと考える。学校教育との連携は。

答弁

来年度から「第3次別海町生き抜く力アッププロジェクト事業」で「ふるさと教育」を推進する。



冬の旧奥行臼駅通所

そのために、社会科副読本を作成中で、その中に「野付半島」「旧奥行臼駅通所」などの日本文化遺産の構成文化財を多く取り扱っている。

構成文化財については写真を中心に紹介するとともに、QRコードを使用して、関係サイトへアクセスできるようになり、より深く学べるようにしている。

また、全教職員が集まる「別海町教育研究協議会」の全体会で全教職員へ周知・啓発する予定である。

日本文化遺産について町民の理解がより深まるように継続議論を進めたい

質問を
終えて



議員8人による一般質問

質問 新型コロナウイルス感染症が町内で発生したときの情報提供は



横田保江議員

質問 町内でコロナ陽性者が出た場合、少しでも町民が安心できるメッセージを発信すべきと考えるが。

答弁 北海道による聴き取りや公表については、町は一切介入できないので、感染者情報を保持することはあり得ない。

質問 町の施設で勤務する職員の中で陽性者が発生した場合、どの施設を公表対象とするのか。

答弁 町が作成した『新型コロナウイルスに感染した職

回答の要約

感染者の個人情報取り扱いは大変デリケートな対応が必要であると十分踏まえたうえで、できるだけ範囲において発信を行っていききたい。

員が発生した場合の公表基準』については、特定の施設に限らずすべての町職員を対象としている。

公表は、本人の同意を前提



としている。

質問 指定管理施設の職員から陽性者が発生した場合に公表対象としている自治体がある。町の考えは。

答弁 町として優先すべきことは、施設の利用制限の周知など、行政上の対応を行う。

個人の感染情報の公表の判断は、指定管理業務の事業者が行うべきものと認識をしている。

質問 事業者から情報提供があった場合、独自の公表基準を設けて公表対象としている自治体がある。町の考えは。

答弁 事業者からの情報提供については、企業の社会的責任において事業者自身による公表の意思があるのか、北海道の公表内容と照らして個人情報取り扱いに違いがないのかなどの確認が必要である。



厚生労働省公式Twitterより

それを十分に踏まえたうえで、できるだけ範囲において発信していきたい。

場合によっては、町において周知をするという場合もあり得ると理解をお願いしたい。

新型コロナウイルス感染症の情報の公表については、北海道では有識者会議、国では感染症対策分科会などにおいて議論されており、見直しを検討しているようであるので、町としても注視していきたいと考えている。

質問を終えて

町独自の公表基準を設けて、町民への感染拡大と命を守る情報提供を！



詳細はこちらのQRコードから

議員8人による一般質問

質問

未来を担う人材育成のために 「公設民営塾」の開設を



木嶋悦寛議員

質問

国は新型感染症と共に歩み、その後の時代（ウィズコロナ・ポストコロナ）に求められる構造転換を加速させようとしている。

持続可能な開発目標（SDGs）に向けた、脱炭素社会の実現がわが町にも重要だ。家畜から排出される温室効果ガスの一つであるメタンガスは、二酸化炭素に比べ総排出量は少ないものの、温室効果は二酸化炭素に比べ50倍と高く抑制は必須だ。

また、スラリーや堆肥は循環型農業に必要な取り組みではあるが独特の臭気を放つことから、住民生活や観光、環

回答の要約

今のところ開設予定はないが、課題への議論を進めたい。また、できるだけ子どもたちの気持ちにも寄り添っていききたい。

境面での影響がある。

脱炭素社会の実現に向けメタンガス排出抑制と臭気対策について、町の認識と対策の現状および今後の取り組みは。

答弁

メタンガス排出抑制について、町での取り組みは現在ないが、国の補助事業に排出抑制要件が組み込まれたため具体的な取り組みが始まる。臭気対策は国営かんがい排水事業によるスラリー腐熟化で低減効果が認められるため、肥培施設の適正管理調査を継続する。

また酪農研修牧場での対策実験をうけ、令和3年度以降

は数戸の農家において実証実験を行う。

さらに大学連携事業を活用しメタンガス発生抑制と臭気低減対策の調査研究を実施したい。

質問

町のデジタル改革として最優先に取り組むべきことは。

答弁

まずは町民の利便性向上のためにキャッシュレス化の範囲を広げることを検討する（介護保険料などの保険料や住宅料、保育料などの使用料など）。

次に、庁舎内無線LAN環境を整えたうえで携行端末（タブレットなど）を整備していく、ペーパーレス化を推進し、行政運営コスト縮減を図る。

質問

未来の地域を担う人材育成に関し、別海高校についても進学に必要な学びを得ることができるよう、公設民営塾の開設を行い、生涯学習

センターの活用とともに未来を担う人材の育成を目指していくべきだと考えるが。

答弁

進学対策では教育支援事業としてeラーニング講習補助を実施し効果を上げている。

今のところ公設民営塾の開設予定はないが、どう地元の高校へ入ってもらえるかは、高校、教育委員会、町が三つどもえとなって課題について議論を進めたい。

また、できるだけ子どもたちの気持ちにも寄り添っていききたい。



地域振興にも効果を上げている足寄町の公設民営塾

質問を終えて

コロナと共に次の時代をどう切り拓くか、未来につながるストーリー作りが今自治体経営に求められていることを実感



議員8人による一般質問

質問 新型コロナウイルス感染症 対策の前進を



瀧川 榮子議員

質問 自主的PCR検査実施が広がりをみせている。

自治体の検査体制は。

答弁 実施基準を設けた。

検査キットは必要時、指定業者が用意することで確認済み。

質問 医療従事者へのワクチンの先行接種が進んでいる。

当町での実施は。

答弁 接種対象者は、病院関係者、老人保健施設関係者、消防職員、歯科、薬局関係者などが対象になると考えている。

回答の要約

自主的なPCR検査は実施基準を定め、必要に応じ感染リスクの高い医療、介護、障がい施設で行うことになっている。

質問 ワクチンの2回接種を確実にするための工夫は。

答弁 同じ製薬会社のワクチンが2回接種できるように供給される。接種の予約を受ける際、2回目の接種日程の調整の検討をする。



4月1日から始まった医療従事者向けワクチン接種

質問 接種会場と緊急時に対応するための準備は。

答弁 町の体育館、西公民館、東公民館を集団接種の特別会場に想定している。

町立別海病院では個別接種を予定し、病院などと協議している。

福祉施設への訪問接種は別海病院の協力のもと、実施の方向で検討している。

副反応の対応に向け、3会場に医薬品の準備と、接種スタートから終了まで救急車を配置し、消防隊員が待機する。

質問 説明や事前周知は。

答弁 町民保健センターが対応する。また、予約、相談を受け付けるコールセンターを設置し不安解消に努める。情報は広報誌やホームページ、接種券に同封し個別通知も行う。

病児・病後児保育実 施への進捗状況は

質問 事業開始に向け、人員確保、医療機関との連携は。

答弁 医師との連携体制や保護者の利便性を考慮し、病院施設内または敷地内の1室で事業開始を目指し協議を行っている。

しかし、感染症対策に配慮した体制整備の確保には至っていない。

質問 料金設定の検討と、事業開始後の継続運営への考えは。

答弁 低所得者への利用料金減免に対する加算もあり、事業実施自治体の料金などを参考に精査していきたい。

事業実施の意向を示す民間事業者から相談を受けている。事業者の適正な運営方針や運営内容、感染症対策に配慮した体制整備を条件とし、具体的内容を精査したい。



詳細はこちらのQRコードから

議員8人による一般質問

質問

これからの時代の 子育て支援のあり方は



小椋哲也議員

質問

全町光回線整備の目途が立ち、GIGAスクール構想により児童生徒教員ひとり1台のタブレット端末が整備される。新しい生活様式に基づいた教育体制の整備は。

答弁

タブレット端末は、既存の授業での活用をはじめ、デジタル教科書の実証事業などの実施を計画している。

また、自宅への持ち帰り運用も含め、2学期頃から遠隔授業の体制を整え、万が一の休業にも対応できる学びの保障を行う。

質問

家庭での利用について

回答の要約

今ある支援制度をさらに利用しやすく工夫し、利用者に寄り添った方法で施策の推進を行う。

では、さまざまな懸念もあるが対策は。

答弁

インターネットへの接続は、有害サイトを利用できないようフィルター機能を用



タブレット端末と光回線で教育環境が大きく変わる

使用し、メールやチャットなど不要な機能については制限をかける。

質問

一昨年の12月定例会で、国の幼保無償化の新制度を受け、町の独自支援がなくなり給食費の実費負担が増えしてしまう問題について一般質問を行った。

町長は、「給食費への支援という形にこだわらず子育てへの支援施策が必要であり、多

子世帯についてもどのように支援していくか根本的な部分から見直す」と答弁している。

コロナ禍により子育て世代の負担は確実に増えている今、町として今後どのような子育て支援策を考えているか。

答弁

情報通信技術を活用したコミュニケーションツールを拡充し、相談支援をはじめ幅広い子育て支援の構築を目指し検討を進めている。

保健センターのオンラインによる保健指導を皮切りに、



情報を必要な人に使いやすく届けることが大切

各種対応に活用していくことを検討している。

質問

別海町は非常に多様な子育て支援制度を展開している。

しかし、その情報が子育て支援世代に利用されやすい形で提供されておらず使い難い現状もある。もう一歩寄り添った形での施策の運用は。

答弁

利用者に寄り添った施策の推進が必要であることは理解している。

これは子育て支援に限らずすべての事業に言えるが、今後、より一層町民に寄り添った形で町政を進める。

定例会・臨時会のまとめ

令和3年第1回定例会会議結果報告 新しい委員会構成と8人の一般質問

第1回定例会の概要

3月4日に招集され、会期を3月12日までの9日間に決定。

1日目 3月4日

町長から行政報告、令和3年度行政執行方針、教育長から令和3年度教育行政執行方針が示されたあと、提出案件の説明と担当部・課長から議案の内容説明が行われました。

町長からの行政報告

- 新型コロナウイルス感染症の対応について
- 産業の動向について

議案などの内容説明

- 各会計補正予算8件を特別委員会に付託
- 先議案件工事請負契約の締結を可決
- 別海町議会委員会条例の一部改正を可決
- 別海町選挙管理委員及び補充員の選挙

議案に関する主な質疑

- 光ファイバーの申請戸数などについて

(佐藤議員、中村議員)

2日目 3月5日

議案などの内容説明

- 特別委員会付託事件8件を全会一致で可決
- 令和3年度各会計予算8件
- 条例の一部改正9件
- 工事請負契約の締結2件
- 辺地に係る公共的施設の総合的整備計画の変更1件
- 別海漁港における公有水面埋立1件
- 町道の路線認定及び廃止1件
- 人権擁護委員候補者の推薦1件

議案に関する主な質疑

- 別海町生活支援事業条例の一部改正
- 条文の表現について

(木嶋議員)

- サービスの利用状況と利用

者数の変化について

(中村議員)

- 別海町指定居宅介護・介護予防支援等の基準の一部改正
- 妥当性を求める判断基準の定めについて(中村議員)
- 過疎地域その他これに類する地域の解釈について

(田村議員)

5日目 3月8日

- 議員6人が一般質問

6日目 3月9日

- 議員2人が一般質問

その後は、11日まで本会議を休会し、各常任委員会を開催

7日目 3月10日

- 予算決算審査特別委員会

8日目 3月11日

- 予算決算審査特別委員会

9日目 3月12日

- 最終日は、補正予算の追加議案の内容説明 特別委員会付託した令和3年度各会計予算8件のほか、すべての案件が全会一致で可決。
- 議会基本条例調査特別委員会付議事件調査結果最終報告

- 各常任委員会委員の選任及び正副委員長長の互選
- 議会運営委員会委員の選任及び正副委員長長の互選
- 一部事務組合・広域連合議会議員の補欠選挙
- 予算決算審査特別委員会の設置
- 議会制度調査特別委員会の設置

第1回臨時議会の概要

1月19日に開催され、ふるさと応援制度推進事業の増額補正予算、秋さけ不漁特別対策事業予算が審議されました。その他専決処分1件

第2回臨時議会の概要

2月16日に開催され、新型コロナウイルスワクチン接種事業予算、漁協に対する冷凍・冷蔵倉庫の保管料補助予算、町内飲食店支援事業予算、地域中小企業感染症対策支援事業予算が審議されました。その他建設工事委託に関する協定の一部を変更する協定の締結1件

議会のうごき 12月定例会終了後から3月定例会まで

1 議長、副議長、各議員（委員）の動向について

期 日	内 容	備 考
1月25日～26日	北海道市町村職員退職手当組合議会 (札幌市)	議長
2月7日	北方領土の日根室管内住民大会 (根室市)	議長

※備考の欄には、公務として出席している議員を記載しており、公務外で地域行事などに参加している議員については記載していません。

2 一部事務組合・広域連合議会について

期 日	内 容	備 考
3月2日	根室北部廃棄物処理広域連合議会定例会 (中標津町)	関係議員
	根室北部消防事務組合議会定例会 (中標津町)	
	中標津町外2町葬斎組合議会定例会 (中標津町)	

※議案等の関係資料は、議会事務局に保管しています。

3 新しい構成メンバー

全員協議会



西原 浩 議長



戸田 憲悦 副議長

西原議長・戸田副議長
ほか全議員で構成

※広報・広聴常任委員会は16頁に掲載しています

総務文教常任委員会



木嶋悦寛 委員長



佐藤初雄 副委員長



小林敏之 委員



大内省吾 委員



横田保江 委員

福祉医療常任委員会



今西和雄 委員長



外山浩司 副委員長



戸田憲悦 委員



瀧川榮子 委員



宮越正人 委員

産業建設常任委員会



松壽孝雄 委員長



小椋哲也 副委員長



中村忠士 委員



松原政勝 委員



田村秀男 委員

予算決算審査特別委員会

大内 省吾 委員長、田村 秀男 副委員長、
委員（ほか全議員）

議会制度調査特別委員会

佐藤 初雄 委員長、中村 忠士 副委員長、
戸田 憲悦 委員、松原 政勝 委員、
瀧川 榮子 委員、小林 敏之 委員、
今西 和雄 委員、松壽 孝雄 委員、
木嶋 悦寛 委員

根室北部消防事務組合議会議員

西原 浩 議員、戸田 憲悦 議員、
佐藤 初雄 議員、田村 秀男 議員

中標津町外2町葬斎組合議会議員

西原 浩 議員、戸田 憲悦 議員、
中村 忠士 議員、大内 省吾 議員

根室北部廃棄物処理広域連合議会議員

西原 浩 議員、戸田 憲悦 議員、
今西 和雄 議員、外山 浩司 議員

シリーズ 町民に 聞きました

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種はじまる

4月1日からはじまった医療従事者向けのワクチン接種を受けた、高橋舞さんと松本真奈さんに感想を伺いました。また、ワクチン接種について担当する保健センターの畠澤みどりさんからもお話を伺いました。

正しい 手洗い方法

こちらのQRコードから
動画をご覧になれます。



出典：厚生労働省
Youtubeチャンネル



広報委員 ワクチン接種後の様子はいかがですか。

高橋さん 注射を打った後、しばらくしてから筋肉痛のような重たさがあります。翌日も仕事に支障が出るほどではないですが、腫れや痛みが出ています。

ただし、これはコロナワクチンが、と言うよりは、インフルエザワクチンなどの皮下注射と違い、筋肉注射である、ということの特徴でもあります。

広報委員 ワクチン接種に際して不安などありましたか。

松本さん 重篤なアレルギー反応の可能性などもあるのでリスクはゼロではありません。ただ、高橋さんの話した副反応のことなども含めて、事前に正しい情報を確認し、その効果なども理解することで特に不安はありませんでした。

広報委員 一般の方々へのワクチン接種について、担当する保健センターから伝えたいことはありますか。

畠澤さん ワクチン接種を受ければコロナに感染しなくなるわけではありません。接種後も感染症対策は必須です。

基本に立ち返って、正しい手洗いとマスクの装着、日々の運動など健康の増進、基礎疾患のコントロールと肥満の解消に努めていきましょう。

広報委員 ワクチン接種前に行ったほうがいいことなどありますか。

畠澤さん 副反応やアレルギー反応などのリスクもありますので、かかりつけ医の方にワクチン接種して大丈夫か確認をしてみてください。不安な面もあると思います。専用のコールセンターも開設して、チャシなどで周知しますので、そちらも利用してみてください。

議会の傍聴の際はマスクを持参ください！

議会の会議は、誰でも傍聴することができますが、コロナウイルス感染症対策のため、発熱がなくマスクを持参される方に限っていますのでご了承ください。

令和3年6月定例会の予定

6月21日(月) 10時～

1日目 本会議(議案の説明・質疑など)

6月22日(火) 10時～

2日目 本会議(一般質問)

6月23日(水) 10時～

3日目 本会議(一般質問)
予算決算審査特別委員会

6月24日(木) 10時～

4日目 常任委員会

6月25日(金) 10時～

5日目 本会議(議案の討論・採決など)

6月											
		1	2	3	4	5					
6	7	8	9	10	11	12					
13	14	15	16	17	18	19					
20	21	22	23	24	25	26					
27	28	29	30								

※議事の内容は、変更することがありますので、議会ホームページをご確認されるか、議会事務局までお問い合わせください。

広報・広聴常任委員会メンバー構成



小椋 哲也 委員長

委員会構成替えとなりましたが引き続き委員長を務めることになりました。コロナ禍により大変な状況が続いておりますが、議会の状況をわかりやすく伝えて行きます。



田村 秀男 副委員長

議会の活動内容をわかりやすく伝える誌面作りを心がけていきます。



瀧川 榮子 委員

コロナが収束し、心から喜べる春に早くなくて欲しいです。



横田 保江 委員

福祉から総務へ替わり、新たな勉強に頑張ります。



戸田 憲悦 委員

新体制になりました。今後も皆さんによりよい情報をお届けします。



大内 省吾 委員

2年ぶりの委員会参加です。編集など楽しみながら頑張ります。



宮越 正人 委員

皆さんから「読みやすい、分かりやすい。」と！益々頑張ります。

「密閉空間」「密集場所」「密接場面」3つの**密**を避けましょう！